

埼玉県川越比企地域医療構想調整会議 各地区部会の開催状況  
(坂戸鶴ヶ島地区部会)

1 開催方法

書面による開催

照会期間：令和6年2月9日（金）～2月22日（木）

対象者：坂戸鶴ヶ島地区部会委員のうち医師会、病院及び市町・保健所  
選出委員 計9名

回答者数：1名（意見がない場合は回答不要との前提で通知した。）

2 内容

第8次埼玉県地域保健医療計画（案）に基づく病床公募について

（回答者1名からいただいた御意見）

① 回復期リハビリテーション病床については、例年急性期医療機関からの転院患者数減少により病床稼働が低下する時期がある。

逆に冬場は転院患者数が増え、転院までの期間が少し長くなることもあるが、それでも紹介患者の平均待機日数は概ね2週間程度である。この事を考慮すれば実感として当地域で回復期は通年充足していると考え、また急性期、回復期、慢性期のバランスも良く成り立っていると考え。

② 全国上位の高齢化が進む埼玉県が2040年までは高齢化人口が増加するとしても、次計画で更に回復期機能を有する病床を254床増床することは既存病院の病床稼働率の低下を招く恐れがある。

③ 各医療機関とも医療スタッフ（看護師等）の確保に大変苦慮している中、更なる増床は医療スタッフの取り合いで更に深刻な人員不足が起こり、結果、病院機能の低下、地域医療の質の低下を招くことにつながる。

④ 地域に地域包括ケア病床などが増床されたりすると近隣の老健施設の入所稼働率が落ち込むことも実感として持っている。

以上を踏まえ、これ以上の増床計画は現実的ではないと考える。

埼玉県川越比企地域医療構想調整会議 各地区部会の開催状況  
(川越地区部会)

1 開催日時等

日 時：2月20日（火） 13:30～14:42

会 場：川越市保健所 2階大会議室

出席者：8名（委員5、委員を除く医療機関3名）

2 内容

第8次埼玉県地域保健医療計画（案）に基づく病床公募について

（意見）

- ① 川越地区として急性期から回復期、慢性期に至るまで、ベッドが不足している印象はない。しかし、川越地区の状況がどうかというデータがない限り、十分な議論はできない。  
→ 第4回川越比企地域医療構想調整会議（3月13日（水））にて、川越、比企、坂戸鶴ヶ島のデータを改めて提示し、改めて議論
- ② 病床を増やしたところで、看護師の人材不足で稼働させられるのかが心配である。待遇の改善や働き方改革などと両立して行っていく必要がある。
- ③ 地域医療構想については、病院の体制をどうするのか、病院間でどのように連携していくかという話の方が余程有意義で、これから大事になる在宅医療をどうするかなどについて議論を行う場であるべき。いつも（病床の）数字に振り回されているのは、もともと考えていた部会とは違うのではないか。
- ④ 今の二次医療圏だけで成り立っているわけではなく、川島町、ふじみ野市、狭山市等隣接する圏域を含めて考える必要がある。

埼玉県川越比企地域医療構想調整会議 各地区部会の開催状況  
(比企地区部会)

1 開催方法

書面による開催

照会期間：令和6年2月15日（木）～2月29日（木）

対象者：比企地区部会委員のうち医師会、病院、看護協会、市町村及び保健所  
選出委員 計11名

回答者数：2名（意見がない場合は回答不要との前提で通知した。）

2 内容

第8次埼玉県地域保健医療計画（案）に基づく病床公募について

(回答者2名からいただいた御意見)

(1) 川越比企医療圏における回復期機能病床は報告ベース及び定量基準分析ベースで大幅な不足とされていますが、地域包括ケア病床を有する医療機関の集計では、川越比企医療圏内の対10万人病床数は84.2床と県全体の49.9床を大幅に上回っている状況にあります。回りハ病床についても県全体を上回っています。

近隣の回復期医療機関との連携の現状を鑑みても、それほど回復期病床が逼迫している感覚はなく、間近に迫った2025年で必要とされている回復期病床の目標数とはギャップを感じているところです。

他方、比企地区の救急医療の現状としては、相変わらず急性期医療の受け皿が少ないように感じています。

以上のことを踏まえ、新たな保健医療計画において行う病床公募については、個々の地域における状況を詳細に分析の上、真に必要な医療機能を強化していただくようお願いいたします。

(2) 川越比企圏域は「回復期」が不足する値となっており、回復期254床が公募可能病床数（案）となっています。回復期機能病床には、回復期リハ病床と地域包括ケア病床がありますが、それぞれの対象疾患群や障害内容、平均在棟日数、必要な病院人員体制などが異なります。当院は比企地区部の回復期リハビリ病床を有する2病院のひとつですが、実感として数字のような不足感はなく、川越比企圏域外の超急性期・急性期医療機関からも適応患者の受け入れ可能な状況です。比企地区部内の地域包括ケア病床がどの程度不足しているのかについては、当院は該当病床を有していませんのでわかりません。公募病床254床の内訳を分けて不足数を明示したほうが、圏域内の実情をより把握し、必要数に新規に応募しやすいのではないかと考えられます。